

多彩なフリーペーパーで「元気」発信 地元にごだわり、人と企業を熱く支援する。



求人情報誌やタウン情報誌など 多様なフリーペーパーを発行

広告収入を元に無料で配布されるフリーペーパーを滋賀に定着させたのが、草津市の株式会社バイサイドプランニングだ。

毎週金曜発行の求人情報誌「vivicar」は、サービス業や製造業をはじめとする県内各地の「お仕事情報」を掲載。正社員やアルバイトを求める企業・事業所と求職者の媒介となり、雇用のマッチングで滋賀の活力創出に貢献している。月刊のタウン情報誌「RUSC」は20代から30代前半の女性をターゲットに、「滋賀で暮らす。私らしく暮らす」ための多様なライフスタイル情報を紹介。流行感度の高い飲食店やスポーツ等の「まちなタ」を掲載している。この二つの媒体を中心に介護関連情報誌「輪はっは」、お徳

クーポンを集めた「クーポンBOOK」、「平日夜宴会本」をはじめとする個性豊かなフリーペーパーの発行など、得意先にも読者にも、さまざまな有益情報を提供している。

他県に比べ人口減少が少ない滋賀県はフリーペーパーにとって魅力的な市場だ。県外に拠点を置く企業の進出が相次いだため、まちで見かける媒体の多くは、県外企業が発行するものだという。

県内800カ所に設置した 専用ラックが事業基盤を支える

「滋賀県をマーケットと見る県外企業と違い、私たちにあっては滋賀は暮らす場であり、愛着ある郷里でもある。好況時には大手媒体はこぞ進出してくるが、景気停滞時にはあっさり撤退する。当社まで撤退したら、情報を発信したい滋賀の企業や事業所は対応できない。だから

こそ、私たちは何があっても、滋賀に暮らす人のための情報発信を継続しなくてはならない」。これは永田咲雄社長が数百年にわたる得意先に向けて誓った「滋賀不撤退宣言」だ。リーマン・ショック直後、広告出稿数が激減した中で宣言した。

では、激戦区化したマーケットにあって、バイサイドプランニングはどんな手法で他社媒体との差異化を図り、掲載量を確保してきたのか。最大の強みは専用ラック設置数の多さだという。JRや京阪電鉄などの主要駅、あるいは飲食店やドラッグストアなどの店先に設置された専用ラックの総数は約800カ所。書店売りの有料求人誌からフリーペーパーへ切り替えた2002年頃から少しずつ設置数を増やしてきた。これは競合媒体がすぐには整備できない数だ。「フリーペーパー成功の鍵は配布方法だ。手配り等に比べて、必要な人が確実に手にする



滋賀の情報を多彩なフリーペーパーで発信する

ラック方式に早くから着目していた。関西圏ではいち早くフリーペーパー事業を軌道に乗せた。

永田社長は媒体をラックへ補充する業務も重視。専任スタッフが現場の状況を判断しながら、ラックの置き位置や媒体の並べ方などを常時チェック、少しでも配布率が高まるような方策を実施している。「どれだけ持ち帰られるか」はフリーペーパーの生命線だからだ。配布率データも全設置現場で収集。本社のシステムに集約して「次」への戦術に生かしている。

紙とデジタルの両媒体制作を 劇的に省力化した新システム

メディアの多様化に対応して「vivicar」「RUSC」等のWEB版も手掛けているが、営業スタッフが得意先で打ち合わせた情報をタブレット端末に入力するだけで、それを紙媒体とデジタル

媒体の各々のフォーマットに流し込める画期的なシステムをシステム会社と共同開発。レイアウト業務の省力化が劇的に進み、導入前の4倍の広告制作量を増やし達成できたほどだという。

これは得意先にも、原稿変更等の締め切りの融通がききやすくなるメリットをもたらした。システム技術は、スマートフォンにダウンロードすると該店の前を通るだけでポイントが加算されるアプリ「ばどにゃんこ」等にも生かされ、得意先が求める効果を確実にあげるサービスは充実している。

こういった努力を重ねて、媒体価値を高め続けてきたことが、激戦区滋賀県の中で独自の存在感となっている。「すべての得意先に公平であるため、安易な値引きも避けてきた。それを貫けたのも高い配布率、紙媒体とデジタル媒体の相乗効果、情報発信にプラスする細やかなサービスといった複合的な価値をご提供してきたからだ」。

「元気発信朝礼」で笑顔になり 業績悪化からV字回復

経営理念は「元気発信!」。リーマン・ショック時に業績が悪化した際、「業績回復には、まず社員を元気にすることだ」と一念発起して、「元気発信朝礼」を実施した。毎朝、大声で笑い、自分の考えを話し、みんなで盛り上がる習慣を持つことで、沈んでいたスタッフが笑顔になったり、モチベーションアップにつながった。

「県外から進出した大手媒体が撤退した時期で、いまこそ滋賀のために当社が踏ん張る時だと腹をくくった。朝礼の効果は抜群。社会全体が暗く沈んでいる時に、当社スタッフだけが満面の笑顔だったから、得意先も元気づけられたのか、少し景気が回復すると、たちまち掲載量が回復した」。

「元気」のパワーで、滋賀のための情報発信事業からの不撤退を貫き通した



全国から多くの企業等が視察に訪れる「元気発信朝礼」

バイサイドプランニング。考え方一つで会社が変わった経験を、永田社長は著書『心のスイッチに火をつける!』で公開している。自己啓発本としても人気を呼んでいるようだ。

Profile

株式会社バイサイドプランニング

- 本社/草津市志那中町102-1
- 設立/1988年
- 資本金/1,800万円
- 従業員数/31名
- 事業内容/求人情報誌「vivicar」・タウン情報誌「RUSC」・介護関連情報誌「輪はっは」等のフリーペーパー事業、人材サービス事業

<http://www.b-side.co.jp/>



代表取締役社長
永田 咲雄氏

Voice

情報発信を通じて滋賀の人と企業を元気にし、地域社会を元気にし、私たち自身が元気になることを目指します。「本気!感謝!感動!」で元気を発信し続けます。滋賀レイクスターズの応援等のCSRにも本気です。



専任のデリバリースタッフがきめ細やかに対応